



JEG ニュースレター 165号

www.jegschweiz.com

2018年4月7日発行

小さな証

子供達に福音を伝えようと情熱を注いできたCS教師が、フィンランドで得たものは、 P 2

賛美コンサート

スイスJEGの歴史初めて、チューリッヒ市で開催された賛美伝道コンサートを特集しました。P7-9

二つの神の家族

シュトゥットガルトと南ロンドン、昨年晩秋から今年春にかけて2つの集会所が誕生しました！ P4

青年は荒野をめざす

聖書の真実とモーゼの足跡を追って今年もシナイに入った金子兄が、荒野で出会ったものとは、 P5



小さな祈り

主よ、どうか、
あなたの御顔の光を
わたしたちの上に
照らしてください。

主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。
主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。

詩篇 96 : 2,3



PASSION 賛美コンサート特集

上記のみことばによって、工藤篤子姉は2000年に賛美ミニストリーに導かれ、その後も、このみことばは、姉の活動の基軸となっています。

ちいさな証

天の国はこのようなものたちのもの

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会会員



ハレルヤ、主の御名を賛美します。

2月にフィンランドのヘルシンキで行われたCS教師トレーニングに参加してきました。雪と氷に覆われ冬真っ只中のヘルシンキではありましたが、参加者たちは今後、CSで主に豊かに用いられるため一つでも多く学びたいという熱い思いに包まれていました。

以前から私自身も含めてCS教師の方が研修会の必要性を感じていました。今回フィンランドの平崎姉から問い合わせがあった時に迷わず、二つ返事で参加の意向を示しました。神様が私たちの必要に対してこの機会を備えて下さった事感謝しています。主は本当に恵み深く遠く香川県から講師である新開兄をフィンランドへ送って下さいました。

2泊3日の研修会は濃厚なスケジュールで埋まっていました。参加者は約20名ほどで、研修会は到着した日の夕飯後から始まり、帰る日の昼食前まで、本当に盛りだくさんなことを学びました。この研修はずっと机に座って講義を受けるのではなく、ほとんどは体を動かしてCSで使うゲームをみんなで体験しました。みんな子供に返って、ゲームに熱中しお腹を抱えて大笑いの連続でした。

新開兄はスーツケースいっぱい教材を持ってきて下さり、まるで玉手箱のように次から次へと面白い道具が飛び出してきました。剣玉、手品は新開兄の得意とするところで、参加

者も挑戦しましたが習得までの道は長いものです。しかし他に教わったゲームはそんなに大げさな道具は必要ないものばかりでしたので、簡単な道具で子供達を楽しく夢中にさせるコツを学びました。

また聖書の話ではパワーポイントのように映像を用いてデジタル時代の子供達に適應するやり方を見せて下さいました。私のようなアナログ人間にはすぐに活用することは難しいですが、助け手を必ず送っていただけることと信じています。

新開兄が上からの知恵を受け誠心誠意を尽くして私たちに伝授して下さる姿は、真摯にイエスに仕えている姿なのだと学ばせられるところが大きかったです。

この研修会を通じて神様は技術面だけではなく子供達に福音を伝える熱い思いと誠実であることの大切さを教えて下さいました。子供の人数が少なくなったことなどで、気持ちが凹むこともありましたが、たとえ一人の子供でも感謝と喜びをもって誠実に主に仕えてゆきたいと思えます。



フィンランドCS教師研修会参加のメンバー

マタイの福音書25章21節「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたはわずかなものに忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びを共に喜んでくれ。』」

主の喜びを共にあずかれ

るように、この私をわずかなものにも忠実なしもべとならせて下さいと、祈り求めています。

この研修会を始めから最後まで祝福と恵みに富ませて下さいました主に感謝と賛美をささげます。





1、賛美コンサート

2018年3月9日、チューリッヒ湖に近いフランス語プロテスタント教会で19時から、工藤篤子&野田常喜賛美コンサートが開催され、スイスJEGの音楽家も共演し、80余名のスイス人と邦人の聴衆に深い感銘を与えました。賛美伝道コンサートとしては、スイスJEGの歴史始まって以来の企画でしたが、

主は教会員の努力と祈りに豊かに応えて祝福して下さいました。

ニュースレター165号では、7ページから9ページまで工藤姉ならびに実行委員長の今村泰典兄の証を中心として賛美コンサート特集号を組みましたのでお読みください。また、この賛美コンサートの録画は以下のURLでご覧いただけます。

www.youtube.com/watch?v=IJ_qUYw77zo

賛美コンサートの中のマイヤー牧師によるPASSIONについてのショートメッセージはwww.youtube.com/watch?v=tzpSFOD-1qYで視聴いただけます。(ドイツ語のスーパー入り)

2、青年会 コンサートの翌日は、チューリッヒ近郊のトムセン家にて、工藤篤子姉と野田常喜兄をお迎えして、スイスJEGのユースらによる青年会が開かれ、12名が集いました。工藤姉は”さまざまな質問が飛び交い、夕食を含めて交わりの時は5時間に及び、有意義なひとときとなりました。若者の心の柔らかさ、純粋さに触れ、この時にしっかりみことばの真理を伝える大切さを思いました。”と書かれていました。



また、11日は、礼拝前の2時間、工藤姉による賛美セミナーが開催され、20名の参加者による貴重な学びのときを持ちました。

3、バーゼル家庭集会における証 バーゼルの家庭集会には、若い音楽家が集い、これまで数々の受洗者や献身者を生み出してきましたが、12日は工藤姉と野田兄が交互に証をされました。野田兄が証をされるのは稀で、出席者の心を強く打ちました。

なお、お二人の証は、スイスJEGホームページの賛美コンサート特設サイトで視聴いただけます。[PASSION 賛美コンサート - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによるこそ!](#)



イースター愛餐会のスナップから

4、新シリーズ マイヤー牧師の”イエスに出会った人”シリーズは2月25日のシリーズ10回目の”盲人のバルテマイ”で終了し、4月8日から、新シリーズ”旧約聖書に記されているキリストの救い”が開始します。創世記からレビ記へと、メシアの誕生から神の人類救済計画と預言されている旧約聖書への探求は興味がつきません。また、旧約聖書のみことばが今を生きる私たちの実生活へどう適用するののかも学びます。

これまでのメッセージは、イースター礼拝の説教を含めスイスJEGホームページの礼拝メッセージサイトでパワーポイント入りの録画を視聴できます。[スイスJEGのメッセージ - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによるこそ!](#)

5、CS教師研修会 2月9日から11日まで、フィンランド・ヘルシンキで、香川県・津田教会から新開宏典兄を講師に迎え、ヨーロッパの日本語教会のCS教師を対象としたCS教師研修会が開かれ、スイスJEGからトムセン千香子姉、本園万子姉、トムセン・ヨハナ姉が出席しました。欧州各地から集まった20名のCS担当者と共に、有意義で実践的な学びの時をすごしました。国境を教会枠を越えて交わり学ぶ機会がこれからも与えられ、励ましあえますことを願っています。



6、スイスJEG修養会 本年度のスイスJEGの修養会は、5年ぶりに(前回は、13年のティン州モシャにおけるミラノ賛美教会との合同修養会)スイスで開かれます。

会場は東スイスToggenburg/Hemberg村の”Missionshaus Alpenblick”で、文字通りアルプスの眺望が素晴らしい、自然豊かなスイスらしい山岳地帯で行われます。[http://missionshaus-](http://missionshaus-alpenblick.com)

[alpenblick.com](http://missionshaus-alpenblick.com) 会場が久しぶりにス

イスということで、フランクフルトやシュトゥットガルトなどからの参加者も予定されています。

テーマは、”溢れる信仰”

[Überfließender Glaube.](#) と決まり、

現在、世話人会が中心となり、企画準備が進められています。青を基調とした斬新なフライヤーもチャーリー兄の手によって作成されました。参加申し込みは4月16日迄です。一人でも多くの兄弟姉妹が参加され、貴重な学びと交わりのときを共有できますようお祈りください。



7、世界各地から月報/ニュースレター&メルマガが届いています。オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ローゼンクランツ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師からのNL/Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林へ。

独シュトゥットガルトと南ロンドン

欧州の日本語教会／集会から

聖書と賛美の集会

BIBLE & WORSHIP STUTTGART
牧師 浅野康

「主の御教えは完全で、魂を生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまえない者を賢くする。主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。」(詩篇19:7)



聖書の御言葉に聴き、神を賛美すると不思議な経験をします。暗く失望していた心に希望の

光が灯り、辛い状況でも喜びが湧き上がります。途方に暮れている時に進むべき道が示され、不安で一杯だった心に平安が広がります。まさに驚くべきことです。御言葉と賛美を通して、神の力が働くのです！

昨年11月から始まった聖書と賛美の集会「BIBLE&WORSHIP STUTTGART」(略してBWS)では、そのような経験を多くの方々ができることを願っています。ある留学生はメッセージの恵みのかち合いの中で、「日本では経験したことのないような恵みを集会や交わりを通して受けた」と証してくれました。これを聞いて、一同が大いに励まされました。

またBWSが始まる前は奏楽者が与えられるか不安だったのですが、ふたを開けてみると、クラリネット、ピアノ、ギターそれぞれの演奏者が与えられました。賛美が豊かになっていることは言うまでもありません。「主の山には備えあり」です。そして時間、労力、財、祈りを惜しみなく捧げて奉仕して下さる方々が



礼拝後の楽しい愛餐会

います。これは決して当たり前ではありません。何と感謝なことか、と思います。

そしてBWSには欧州宣教のビジョンも与えられています。BWSとして牧師を欧州各地の日本語教会・集会にメッセンジャーとして派遣し、欧州に神の祝福をもたらしたいと願っているのです。少年がごくわずかですが、自分の全ての食物を捧げた時、神は多くの人々を豊かに祝福されました。私たちはごく小さな群れです。でも神に信頼して全てを捧げる時に、欧州の多くの人を富ますことができると信じます。この大いなる神をますます信頼できるように、祈って下さると幸いです。

お問い合わせ: bible.worship.str@gmail.com

浅野康牧師 プロフィール

東京大学教養学部(専攻:表象文化論)卒、聖書宣教会(福音派神学校)卒。同盟福音基督教会の尾西教会(愛知)と名古屋教会で牧師として計10年間勤務。シュトゥットガルト日本語教会で2年間勤務。2013年よりドイツ在住。ドイツ人の妻と3人の子供

福音に立った牧会を

南ロンドン・キリスト教会
牧師 清水勝俊

「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい」(創世記12:1)



これは、私がロンドン転勤になった2010年、渡英前日の元旦礼拝でいただいたみことばです。もともとロ

サンゼルス日本人教会で救われたこともあり、自分自身の経験から海外の日本人の救いには重荷を持っていました。これは会社の仕事での駐在でしたが、神様に遣わされたものと思っています。ロンドンでは現地の様々な日本人伝道に携わらせていただきましたが、その間、献身の思いが与えられ、会社を辞め、帰国し、神学校に入学しました。

この度、3年間の学びを終えて、ロンドン・英国・欧州の日本人宣教のため、栄聖書教会(日本福音キリスト教会連合)の派遣宣教師として、遣わされることになりました。神学校で学んでいる間、伝道していた方々のうちから、求道者が与えられ、信仰告白に導かれ、また、洗礼を受ける人たちが起こされるようになりました。かつて、一緒に伝道していた方々と新しく教会を建てたいとの思いがともに与えられて、今、祈って待っている方々がおられます。

私はクリスチャンとして海外に出て初めて、教会や



4月1日 教会設立式を挙げました

信仰者にも多様性があることを知り、様々な経験をする中、教会を建て上げていくには、しっかりとした福音に立った牧会が必要と思うようになりました。一方、海外の日本人宣教には大きな可能性があり、一説に海外で信仰を持つ日本人は国内の場合に比べ30倍の高い確率があるとされています。

しかしながら、その多くは日本に帰国した際、教会を離れて信仰を失うとも言われています。いろいろと理由はありませんが、私はまず、みことばに養われ、弟子訓練を十分になされないうまま帰国するケースが多いからだと思います。そのような中、今、ロンドンでの教会開拓のビジョンが与えられ、いよいよ4月1日、教会を設立します。みこころがなされるよう、お祈りいただけましたら幸いです。

お問い合わせ: tmm933@yahoo.co.jp

清水勝俊牧師 プロフィール

1965年 愛知県岡崎市にて出生
1989年 一橋大学卒業、トヨタ自動車入社
1996年 ガーデナバレーバプティスト教会、(米国ロサンゼルス)にて受洗
2016年 米国フラー神学校修士課程修了
2018年 聖書宣教会・聖書神学舎卒業
栄聖書教会より宣教師として派遣

ホームページ: www.sljc.co.uk

欧州の日本語教会／集会から

集会発足から半世紀

森 功、よし
ブリーネ祈りの家



デンマーク・クロンボール城を背に

日本からは桜の便りが届いていますが、春の訪れの遅いノルウェー、ブリーネから

お便りさせていただきます。

この北欧の小さな町ブリーネ(Bryne)で日本人集会所が始まって今年で50年になります。この6月に記念礼拝を計画しておりますので、その事をお分かちいたしたく、またこれまで守られた事を感謝して報告させていただきます。

ここブリーネで信仰を持った故安部哲兄と近くの町、スタヴァンガー(Stavanger)にある神学校に日本から留学された、元神戸ルーテル神学校校長、橋本昭夫先生のお二人で始められた聖書の学び会が始まりました。



80年1月5日の集会：安部哲兄を囲んで

50年前、1968年というのはヨーロッパの中でも早いうちのスタートではないでしょうか。安部兄が1989年に亡くなったからは、私共夫婦が後を継いで今に至っております。

ノルウェーはもともと信徒伝道の盛んな国でしたが、安部兄の時代は、ここブリーネでの日本人集会所は、日本人も多くはなくみことばの種を蒔く為の耕しの時代でした。もっぱらアメリカやヨーロッパに出て行き、信徒伝道者として多くの地域でご奉仕された安部兄でした。

時代は高度成長期、日本からの駐在者がヨーロッパに沢山いらした時代です。安部兄の働きの実実はノルウェー以外の方が華々しく豊かでした。ここブリーネで続けられていた日本人集会所が実を結び始めたのは、皮肉にも安部兄の亡くなられた後でした。

ただそれまでの安部兄の涙ながらの祈りによって、蒔かれていた種が芽を出し成長していた時代でもありました。

1989年の夏に私共が引き継いでから、それまで集っておられた方々がほとんど洗礼するという恵みに与かりました。ただ皆様が高齢者となり既に亡くなられた方々、施設に入っておられる方など集会所に集う方が随分減ってきました。



1995年12月10日 集会の後で

昨今、ノルウェーの繁栄と比例するように、国際結婚をしてノルウェーに移住して来られる日本人の方々が増えてきており、新しい時代を感じておられます。新しい形の宣教・伝道をここ10年模索しながらやってまいりましたが、今まさに安部兄が忍耐を持って耕し、種を蒔き、祈りの水をやり続けた苦勞を味わっています。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。一主の御告げ—それはわざわいではなくて、平安を与える計画でありあなた方に将来と希望を与えるためのものである。エゼキヤ書29章11節」

今まで何度も繰り返して励まされて来たみことばです。

今年の夏で年金受給者になる主人も、気持ちも新たに、さてこれからどのように私達が集会所を導いていったらいいのか、新しい時代にどのように集会所を引き継いでいくことができるか、神様のご計

画をどのように立てていくくださるのか、、、と祈っているところです。



昨年のクリスマス祝会：金子兄をお迎えして

そのような中であって50年の節目に記念の礼拝、集会所を橋本先生のご協力のもと開催できますことを感謝してご報告させていただきます。

***6月3日(日曜日) 12時30分より
記念礼拝 14時30分より愛餐会・証会**

この機会にブリーネにもおいで頂けたらと願っています。何時も主にある兄弟姉妹の方々の祈りの輪に加えていただいておりますことを心から感謝しております。

神様へのインタビュー

ニュースレター164号の中の「神様へのインタビュー」という詩が大きく心に沁みて何度も読んでいます。一番最後に、神様がニコッと笑って、わたしはいつも貴方の側にいるからね、いつもだよ。とおっしゃってるところが特に身に沁みています。

本当に、毎日を独り暮らしをしながら気がつくと、神様に助けられていたのだ、それ故、このように上手な解決が出来たのだという些細な出来事が次々と起こっているのです。

そして、それに気がつくたびに「神様、ありがとう」を繰り返して、一日に何度もこの言葉をつぶやき、そして、夜には、今日も一日無事に終わり、元気で寝床に入れます。

神様、本当にありがとうと、お礼ももうしているのです。 スイス在住 I.K.

ノルウェイ：ハダンゲルフィヨルドの滝

欧州の日本語教会／集会から

青年は荒野をめざす

シナイで出会った4人の若者

金子進

オスローJCF



1月から2月にかけてシナイ半島に出かけていました。昨年11月の検診で、2月末までの旅行許可が出ていたからです。2週

間ほどでしたが、友人たちへの挨拶回りや新しい資料探索が主題でした。

今回は入りたかったワデイが封鎖され、2~3日待ったが開通せず、街中でぶらぶらと待機する間にガイドのサイド君をダハブに連れてきた。探索計画の練り直しミーティングを繰り返していた最中、ダイバー免許を取るために滞在していた4人の日本人青年に出会った。彼たちは私の「シナイ山レポート」を旅行代理店から借りて読んでいた。すぐに彼らと行きつけのカフェで談笑。

彼らを紹介します。Kさんは会社の若旦那で自分の人生を見直す旅をしながら、旧約聖書の足跡を追っているノンクリスチャン。彼は聖書に詳しくイスラエルを回り、モーセの足跡を辿ってシナイに来ていた。Mさんは学生でまだ20歳。休学して世界を回りながら、バン格拉デッシュでは9か月間も田舎で現地人と共同生活の経験者Tさんは僧院系の会社に勤めていたが退職して旅行中。彼は中国の西安からシルクロードを通りながら中近東

北部を回ってシナイに来ていた。皆さん敷かれた



レールから一時離れて、自分の人生を見直している若い強者です。



ダハブ市街の入り口にあるカフェで談笑中の左からKさん、サイド君、私、カフェの従業員、Mさん、Miさん、Tさん

明日は早朝から探索に出かけるという日に青年たちに出会いました。いろいろと話しているうちに私の探索に興味をもち、出来れば同行したいと申し出た。私のOKサインに大喜びだった。「今晩は良く眠り、水、パン、果物、クッキーなどの昼食を持参して、明日の朝7時にここで待っていてください。私が迎えに来ます。」で話がまとまった。すべての探索には8人乗りのトヨタ4輪駆動が用意されており、3人でも7人でも超過料金はかからないので助かった。



一日かけて砂漠の中を走って古代遺跡や岩に刻まれた古文谷を2か所ほど見て回った。彼たちはこのような探索は初めてのようで、興奮しながらインディ・ジョーンズの世界だとはしゃいでいた。私のレポートがきっかけで出会いましたが、青年たちのおかげで違った発想や物の見方に気が付いた。先に歩いて岩壁を追いながら沢山の刻まれた文字や像を探してくれた。私も非常に助かった。

明日も同行したい、と言うので聖書のミデアンの地でサイド君の村でもあるワデイ・アインに同行してもらった。Kさんはよく聖書を読んでいて、モーセがチッポラと出会った井戸端や、モーセ家

族と祭司エテロー族の40年余りの居住地域も一回りする、とのことで非常に興奮していた。翌朝、何時もの市場でサイド君家族のために、穀物、野菜、果物、油、石鯰、砂糖、塩、調味料、その他を大量に買い込んだ。料金が確定した物から4人の若者は車へと運んでくれた。

Kさんは「金子さん、私、泣いています。ここまでののですか金子さんは」と涙ぐんでいた。「これは私の感謝の気持ちです。サイド君のおかげで私はどれだけの発見や貴重な資料を集められたことか。それは聖書の正しさの証明につながるのです。感謝はまだまだ足りないですよ。」と返した。

一日かけてワデイ・アインを探索した。皆さん大満足でした。地上の楽園に來たかのように、身も心も開放されていた私たちでした。ワデイの丘を歩きながら、貴重な宝石の原石が足元に散らばっているのを発見したTさんは「これはヤバイ、ヤバイです此処は」と叫んでいた。そして我々5人はこの広いワデイのこの場所だけは他言しないことを互いに誓い合った。自然のままに残しておくべきだ、との結論に達したからです。何時來てもここは私にとって地上の楽園です。



高い山々の間を這うワデイに夕日が落ちるのは早い。現在、サイド君が住む村にまで下りてきて記念撮影。30名ほど住んでいる村には携帯やネットが繋がらない。ワデイ・アイン村での一日は長く感じる。水は豊富にあるのですが、インフラ設備はまだ遠く、厳しい生活を強いられています。

今回も守られ無事にオスロに戻れました。ダハブで出会った青年たちに神様の話が沢山できたことは幸いでした。荒野で自分の人生を正していた4人の若者、今、何処でどうしているかなあ、とオスロで手を合わせています。

忘れられないスイスでの賛美
工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ
工藤篤子



よ」を聞いていた野田さんが、オルガン、コントラバスと声が教会の空間に溶け込んだ賛美の美しさに、いつまでも聞きたいと思ったそうです。また、クーランのオルガン+コントラバスの賛美は、暖かく心に染み入るすばらしい演奏でした！



チューリッヒ、パリ、ブリュッセル、アイントホーフェンでのコンサートを主の守りと導きのうちに終え、3月26日、3週間ぶりに無事ハンブルクの我が家に戻ることができました。スイス日本語教会の皆さま、コンサートのために、一昨年より祈り話し合い、心のこもった準備を重ねてくださり、本当にありがとうございました！おかげで、主の確かな導きをいただきながら、賛美し、主を証させていたることができました。

野田さんのピアノと共に賛美伝道コンサートを、という今村さんの篤い思いから始まり、スイス教会が野田さんの日本からの旅費を捻出してくださったことにより、チューリッヒだけでなく、パリ、ブリュッセル、アイントホーフェンでのコンサートも可能になりました。心からのお礼を申し上げます。

実行委員長の今村さんには特にお世話になりました。コンサートのオーガナイズだけでなく、お宅に家族のように迎え入れてくださり、奥様、葉子さんの栄養のあるおいしいお食事に、ハードなスケジュールであったにもかかわらず、野田さんも私も一週間の間に2キロほど太ってしまいました（笑）。また、お宅の居間のピアノで、野田さんと十分な合わせをすることが出来ました。

マイヤー先生、お忙しい中、私のつたないドイツ語を丁寧に校正してくださり、心からのお礼を申し上げます。特に、「主よ人の望みの喜びよ」の#（シャープ、クロイツ：バッハは、キリストが十字架にあげられたことを表わすのに、音符にシャープをつけた etc.）の校正文章から、私の説明をはるかに超えた、先生の、十字架のイエス様を伝えたい思いが伝わってきました！先生の校正のお陰で、スイス人の皆さまにも私の証とメッセージを、スクリーンを通してしっかりお伝えすることができました。

しのぶさん、和君、素晴らしい演奏、賛美演奏をありがとうございました！コンサート前にすでに教会で音合わせをして備えてくださったことも感謝します。下で「主よ人の望みの喜び



よ」を聞いていた野田さんが、オルガン、コントラバスと声が教会の空間に溶け込んだ賛美の美しさに、いつまでも聞きたいと思ったそうです。また、クーランのオルガン+コントラバスの賛美は、暖かく心に染み入るすばらしい演奏でした！

松林さん、素敵なポスター作成、インターネットのビデオアップなど、兄の影日向の愛のこもったご奉仕、また、コンサート当日は風邪をひかれていたにもかかわらず、録画の労を取ってくださり、心からの感謝を申し上げます！また、コーディネーターの原さん、パワポ奉仕のチャーリー君、受付・CD販売の節子さんと明美さん、写真撮影のトマスさん、会計のコニーさんと美和子さん、その他、コンサートのために祈り支えてくださいましたスイス日本語教会と世界中の兄姉の皆さま、本当にありがとうございました！



また、日本から駆けつけてくださった友人と彼女の90歳になるお母様を暖かく迎えてくださって感謝します！未信者のお母さまは、コンサートでは涙を流され、翌日の2時間近くに及んだ賛美セミナーでは、まるで信仰者のようなお顔でじっくり聞いておられました。救いが近いのではないかと思います。

コンサートの翌日10日は、トムセンさんのお宅でのユースの集いで、夕食をはさんで、約5時間に及び証しをさせていただきました。あれほど、罪と恥にまみれた半生を暴露し（笑）、キリストによって変えられた歩みをお分かちさせていただいたことはなかったと思います。

11日の「賛美セミナー」にも多くの皆さんが参加してくださり感謝でした。教会が賛美セミナーI, IIのDVDを購入してくださりましたので、興味のある方は、主に喜ばれる賛美について、是非詳しく学んでいただければ嬉しいです。

12日のバーゼル集会には11名の方々が集まり、来られた学生さんは和君と愛記音ちゃんのみでしたが、ここで私も初めて（こんなに長く一緒にコンサートをしてきましたのに！）野田さんの証しを聞くことが出来ました。和君と愛記音ちゃんは、前日のトムセン家にも来てくださり、また、13日にはバーゼル駅まで見送りに来てくださり（和君は12日バーゼル市内案内もしてくださいました）お二人と3日間とても幸せな時を過ごさせていただきました。この集会から、これまで多くの音楽家たちが救われ、また献身に導かれていますので、これからも主がこの集会を大いに祝福してくださいますようにと祈っています。チューリッヒ・フランス語プロテスタント教会



PASSION

こころの歌、たましいの歌

ソプラノ **工藤篤子** ピアノ **野田常喜**
賛美コンサート

2018年3月9日（金）
 18時30分開場
 19時開始
 （コンサート後、和歌子と和歌をどうぞ）

場所：チューリッヒ・フランス語プロテスタント教会
 Eglise réformée française zurichoise,
 Schanzengasse 25,
 8001 Zürich
 （Zürich Stadelhofen駅から徒歩5分）

マルチン・マイヤー牧師
 （パッションについて
 ショートメッセージ）

入場無料（Kollekte）

工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ
 スイス日本語福音キリスト教会 共催

賛美曲： 喜びの歌 / オルガン / 野田和明 / コントラバス
www.passtime.com

Der ganze Liedertext, das Zeugnis sowie die Message werden auf Deutsch übersetzt.

コンサート企画実行委員長から一言

今村泰典

スイス日本語福音キリスト教会



2018年3月9日(金) チュ
リヒ・フランス語プロテスタ
ント教会 Église réformée
française zurichoiseでの工藤
篤子姉、野田常喜兄による賛美
伝道コンサートが祝福の中に終
わりました。

このコンサートの企画そのも
のは2016年11月の役員会にて
原案が出されました。とても良
い企画という事で役員全員一致

で決まり、翌年2017年1月にはその旨を工藤篤子姉、野田常
喜兄にお伝えし、快諾して頂き、日程確保
のお願いをしました。

私は2011年10月に東日本大震災チャリ
ティーコンサートに工藤篤子姉、野田常喜
兄と一緒に数回させて頂きました。工藤篤
子姉とはそれまでに何度かご一緒させて頂
きましたが、野田常喜兄とはこの時が初め
てお二人のコンビの素晴らしさに非常に
感銘を受けました。お二人とも賛美伝道コ
ンサートを神様から与えられた天職として
これのみをされていてこれぞ神様に遣わさ
れている方達と確信しました。

コンサート・オラトリオ歌手として世界
中を飛び回り、それを生業としていた工藤
篤子姉は2008年に神様から「世俗音楽を
断ち、これからは篤子の口を、わたしを賛
美するためだけに用いなさい。」という示
しが与えられ、2週間の間これが本当に神様
の御心かと確かめるべくお祈りし、それまで歌っていたオペ
ラ、リート、スペイン歌曲、フランス歌曲など世俗的な楽譜
そしてCD、レコード、本などのすべてを丸3週間かかって廃
棄され、またマスタークラスもすべて断られたとお聞きしま
した。

普通ならばこの様に世俗音楽を断
ち切ると当然コンサートが来なくなり、また生徒も来なくなり、たちど
ころに生活ができなくなるので、怖
くてそこまで思い切れないはずで
す。しかしそこは100%神様に信頼
を寄せて生きて来られた工藤篤子
姉、主が導かれることであればす
べてが備えられるという信念のもと賛
美コンサートを続けて来られまし
た。すでに神様からそのような召しを与えられて10年の歲月
が経っています。それだけに歌唱能力もさることながら、彼



女が語る証しも説得力のあるものです。

また野田常喜兄も本当に優れたピアニストで、特に賛美伝
道コンサートの伴奏にかけては私の知る限り世界で第一人者
としての実力をお持ちの方と思っています。彼が奏でる最初
の一言がその場の空気を一変させ、工藤篤子姉の賛美を主に
捧げる橋渡しを担っている様に感じられます。それは、即興
演奏にも長けている野田さんが、賛美コンサートの為に、ひ
とつひとつのことばを表現し支える賛美演奏を求めて、祈り
と共に膨大な時間を練習に捧げて来られた結果だと思いま
す。

この素晴らしいコンビでヨーロッ
パでも一度コンサートをして頂きたいと
常々思っていました。しかしながら
「賛美伝道コンサートでのピアノは伴
奏でしょう。音大を卒業されてピアノ
を弾ける方はヨーロッパにも沢山いる
でしょう。敢えてわざわざ渡航費を
払ってまで日本からピアニストを呼ぶ



必要があるの
でしょうか。」とい
うご意見がたくさ
んありました。しか

しこれは野田常喜兄の実際の演奏をご存知
ないからその様に言うのです。これには彼
をお呼びして実際に演奏を聞いて頂くしか
方法は無いのです。

しかし日本からお呼びするのに多くの費
用と労力がかかります。それをクリアし
ないとお呼びできません。最近はYoutube
やCDなどを通して演奏を聴く機会があり
ますが、それでも「生」とは絶対に違いま
す。さてヨーロッパの各教会の皆様をどの
様に説得しようかと考えていましたが、良
い案はありませんでした。そこで必死に神
様に祈りました。

私のお祈り、というよりもこの賛美伝道コンサートを実現
しようと思っていらっしゃる方すべてのお祈りが神様に聞か
れました。その結果、スイスのチューリヒでのコンサートを
始めにフランスのパリ、ベルギーのブリュッセル、オランダ
のアイントホーフェンと4つの町でのコンサートの機会が神様
によって与えられました。

私はチューリヒのコンサートのみ聴かせて頂きましたが、
80名近くの方がお見えになり、証しを交えた賛美はとても素
晴らしく、歌声に演奏にまたトークに涙を
流しながら聴いていらした聴衆は決し
て少なくなかったのではないと思
います。これぞ神様が企画して下
さった賛美伝道コンサートです。
主が最初から最後まですべてを善
しとして取り計らって下さいまし
た。主に感謝せよ！ハレルヤ！！




工藤篤子：札幌大谷短期大学音楽科卒業後、短期大音楽専攻講師・研究課程
を修了。1980年、マドリッド国立音楽院に留学。
1982年、スペイン・マドリッド国立音楽院にて、CDコンクールにて、声楽を、
藤田清子、江口元子、マリミ・デル・ボン、オリヴェラ・ミリアコフツ
チ、ジェラルド・スゼー、ピクトリア・デ・ロス・アンヘレス、アルフレ
ド・クラウス、バロック音楽をマリウス・ファン・アルダ、教会音楽を合衆
楽家の合唱団から。
オラトリオのピアニスト、スペイン歌曲のスペシャリストとしてヨーロッパ各地
で演奏。音楽を通じて福音を伝える働きに専ら。2000年、「工藤篤子賛美
伝道コンサート」を企画。2011年、神に与えられた賛美を伝えることを使命と考
へ、「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」と改称。世界の各地で賛美・伝道コンサートを行ってし
ました。また、2013年より「賛美セミナー」も開催。ドイツ、ハンブルク市在住。CD「Come To Me」、
「よきかき守られて」「主よ人の望みの喜びよ」などCD、「賛美セミナー」CD、DVD、書籍「賛美のこ
ころ」好評発売中。HP: <http://www.kudo.com>



野田常喜：1974年東京都に生まれる。両親の影響を受けて、7歳から教会で賛
美歌やゴスペルの演奏を始める。1998年大阪音楽大学ピアノ科卒業。高山い
ずみコンサート入賞。なわが音楽祭等に出演。現在、クラシックを中心に演奏
活動をする傍ら、作曲やアルバムプロデュース・アレンジにも手掛ける。
ジャンルを超えた音楽活動の心と意欲が溢れる新しいピアノの音楽の中心に活躍
がある。2013年5月、自身のピアノソロアルバム「賛美のこころ」を発売。8月、
CD「All My Love」を発売。



マルティン・マイヤー牧師：東洋生まれ。17歳まで日本で育ち青年期を過
こし、帰国後、神学、宣教師、英語を学ぶ。1985年、リーベンザラ宣教師団から宣
教師として日本に渡る。茨城県で伝道に従事。奥多摩霊修の家のアレクサを創
る。1988年にドイツに帰国。2000年よりチューリヒでピアニストとして教会の中心で
マスターを執務。その後、リーベンザラ教会牧師を務め、2013年からスイス日本語
福音キリスト教会専任牧師。
3人の成人した息子と娘、2人の孫がいます。

神様の素晴らしさと偉大さ

ソリス吉田摂理

アガバ・クリスチャン・センター



ハレルヤ！今回の工藤さんと野田さんのコンサートは、本当に神様からの素敵なプレゼントでした。

チューリッヒに住むように

なって4年目になりますが、まさかこの地でお二人のコンサートに行くことができるとは思ってもよらず、お知らせをいただいた時からとても楽しみにしていました。

以前から 工藤さんの顔は頻りにコンサートのフライヤーなどでお見かけしていたので、コンサートに実際に行かせていただける機会に恵まれて本当に嬉しかったです。とても透明感のあるソプラノの歌声は、まるで会堂の天井を突き抜けるかのようで、その響きが身体中に伝わるようでした。お証や、曲の中で映し出されるストーリーの一つ一つからも、神様のすばらしさと偉大さを感じました。

野田さんのピアノソロや伴奏も、それ

ぞれの曲調に本当にぴったりの旋律を奏でていらっちゃって、曲の始まりから終わりまで、音楽の中に引き込まれました。実は、野田さんには、以前家族でお世話になったことがあったので、まさかチューリッヒで再会することができることは夢にも思わず、感激致しました。

コンサートの後のお茶の時間も、とても楽しかったです。普段日本人の方々と接する機会があまりないので、スイスJEGの皆さんと日本語で会話することができ、とてもリフレッシュできました。沢山のご奉仕やご準備等、本当にありがとうございました。

主と皆様に関心から感謝致します。

賛美を捧げること

津田和明

スイス日本語福音キリスト教会



今回の工藤さん、野田さんの伝道コンサート、家庭集会においての交わりの中で、両氏のお証、お話を通して、沢山のことを教えて頂く素晴らしい機会と成りました。その中で特筆したい内容

は以下の通りです

私は今まで賛美奉仕に携わせて頂くとき、何を備えていいのかわかりやすく具体的に分かっておらず、演奏能力を用いてもらっているというところで満足していました。もちろん、主が働かれて、素晴らしい賛美をいくつも経験しましたが、「演奏者が賛美歌を演奏したら賛美」ではなく、賛美奉仕者が演奏者としての自分自身を主の前に捧げ切ることの重要性を教わりました。また、才能と賜物の違いも教えていただきました。そして「音楽と賛美は別物である。」というポイントを教えられた時に、内なる聖霊が豊かに語って下さいました。



「あなたに音楽の賜物を与えたのは誰か。」「神への賛美を超える音楽がこの世にあるか。」「音楽を富や己の満足、名誉に捧げていないか?」「賛美する体として生きていきなさい。」聖霊に満たされて口のきけない時間が続きました。そして、主に召されて、私は伝道者として生きるために自分の人生を捧げることは決めていたけれど、音楽家としての自分を捧げきれていなかった事に気がつかされました。お二人の賛美を通して神様が豊かに臨在され、聖霊が生き生きと働かれていたのは、お二人が主の前にお二人の存在、賜物を捧げ切っておられたからなのだなと納得しました。

スイスの聴衆からのフィードバック

Mir persönlich und auch den Schwiegereltern von unserem Sohn hat das Konzert sehr gut gefallen. Natürlich, wir kommen alle drei aus einem christlichen Hintergrund. Die Lieder und die Predigt haben gut in die Passionszeit gepasst. Es war ein evangelistischer Abend und ich denke, die Botschaft der Sängerin, dem Pastor etc. war deshalb so zentral, weil für Menschen, die ursprünglich aus einem total anderen Religionshintergrund kommen und zum christlichen Glauben konvertiert haben, Jesus der Erlöser, Anfänger und Vollender des Glaubens der Weg, die Wahrheit und das Leben ist - ein wischi-waschi gibt es nicht. Bei uns mischt man den "schon immer dagewesenen Glauben" oft mit einer Prise Humanismus, guten Werken etc.

Die Musikqualität war auf sehr hohem Niveau und kam von Herzen! Das hat man gespürt. Ganz liebe Grüsse aus dem Unterland H. und H.

今回の賛美コンサートに、私個人と息子の義両親はとても魅了されました。もちろん、私たち三人は、キリスト教すなわち同じ信仰を持っています。賛美曲やショートメッセージは受難週によく調和したものでした。ソプラノ歌手ならびに牧師が伝えた「良き知らせ」はこのコンサートの中心的な位置を占め、全く異なった宗教的背景から来てキリスト教信仰を

得た人々にとって、救い主イエス—初めであり終わりであり、真実であり命である—が中心の喜ばしき福音のタペであったことでしょう。

このスイスにおいて、人々は、いつも当たり前存在した信仰は、人道主義や善行と混ぜ合わたものとしてしまいました。音楽の質は、高度にプロフェッショナルで、心のそこから来るものであったと感じました。 東スイス H&H

wir waren beeindruckt von eurer Gemeinschaft, von der wunderschönen Sopranstimme, den Solisten, dem Gottesdienst und dass wir nachher noch von den feinen japanischen Spezialitäten kosten durften.

Es war eine ganz spezielle Erfahrung für uns, nochmals ganz herzlichen Dank und liebe Grüsse E u J

教会のみなさんの交わり、素晴らしく美しいソプラノの声、ソリスト、礼拝、そして、その後の素晴らしく美味しい日本料理を賞味でき感動いたしました！私たちにとって、それは特別な経験となりました。もう一度、「ありがとう」!!

チューリッヒ近郊 E&J